

障がいがあってもだれでも生活し働いて学ぶ地域の学校づくり

取組に至る背景・事業の目的

- 養護学校を卒業して就職したものの、数年で仕事が合わなくて悩んだり、職場の人間関係に躓いたりして、離職する人が増えている。中には、引きこもったり、心の病にかかったりして深刻な場合もあり、差別や偏見などさまざまな社会問題が背景にある。
- このような卒業生たちが、働く意欲を失わず、体力をつけて再就職するために、富士見町の畑を借りて、地元の特産物を栽培したり、居場所や学ぶ場所を用意したりして、就労支援・相談支援を行うことが目的である。
- この活動が、若者や障がい者の社会参加とその人たちを支える地域住民と地域の活性化につながることも目的である。

事業内容

- 障がいのある人々による特産物の栽培、地域住民の参加も呼び掛けた陶芸・木工教室、展覧会、コンサートなどの実施。
 - ・富士見町の特産物、えごま・ルバーブなどの栽培、草取り、収穫。
4月～11月
 - ・芸術家たちの絵画の展覧会。8月4日～8月30日。
 - ・養護学校卒業生たちの絵画展。11月。
 - ・地元音楽愛好家のコンサート。11月16日。
120名参加。
 - ・木工教室。12月20日、1月24日、2月7日、
2月7日、3月14日、5回開催。30名参加。
- 『長野県政出前講座』を木工教室に合わせて開催。
長野県や地元富士見の森林の特徴や環境問題について考える機会となり、自分たちが森林を大切にしながら木材を活用することの大切さを学んだ。



【 木工教室の様子 】

事業効果

- 支援金を活用し、陶芸教室や木工教室などを開催して、障がいのある人々と地域住民との交流ができた。その交流を通して地域住民の障がいに対する理解や意識が高まった。木工教室では参加者より、「いろいろ教えてもらって製品を作ったが、障がいのある人とは思えない。自分の意識が変わった」という感想などを聞くことができて大変良かった。
- この活動が地域の関心と呼び、高齢者や地域住民の参加が増え、地域活性化の一助となった。
- 障がいのある若者の雇用促進と就労支援に取り組み、離職者がチャレンジして再就職できた。
- 障がいのある人々を支援し、活動に参加しようというボランティアが増えた。
- 障がいのある人々を就労体験や職場実習で受け入れる事業所や場所が増えた。
- 地域住民が普段から活動拠点を利用したり、野菜や米などを提供して下さったり、地域の一つの居場所として認識され、大変ありがたいことである。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 障がいのある人々と地域住民との交流をどのように進めたらいいか考え、特産物の栽培を通して共に畑で汗を流す活動、陶芸・木工教室、コンサート、絵画展などで楽しみながら触れ合う活動を取り入れたことが工夫した点である。
- 障がいのある人の再雇用は、なかなか難しく、職場実習先や就職先を見つけることに苦労するが、これまでの活動を通して知り合った事業所より採用の話があるたびに皆で喜び合っている。
- 私共団体の活動拠点多くの人々にとって必要で、有意義な場所と評価されてきたが、古くて大きな建物のため費用がかなり掛かり、私共団体では、維持管理が難しいことが大きな課題である。
- 地域住民と障がいのある人々が共に活動するために、私共が架け橋になり、地域住民にとっても楽しい居場所づくり、地域の活性化につながる拠点づくりを継続して取り組みたい。

【選定のポイント】

各種講座や機器の整備により障がい者が住民とともに様々な体験をすることで、住民への理解促進や就労支援が期待される。

団体名	八ヶ岳南の学校（富士見町）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	諏訪郡富士見町境7856-5	事業費	1,238,571円
電話	0266-64-2933	支援金額	877,000円